The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新書紹介 ： 理系たまごの英語40 日間トレーニングキット
Author(s)	田中, 啓文
Citation	日本物理学会誌. 2008, 63(11), p. 884-884
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/3154
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新書紹介　～理系たまごの英語 40 日間トレーニングキット～

英語の習得という意味において、やる気の無い人間に何をやらせても全く身にはつかないが、いざやる気になったときには教材によって差が出てきてしまう。特にテクニカルタームに初めて接する理系初心者にとってはいかにやる気にさせるか、そしてやる気になったときにいい教材であるのか、がその後の理系英語吸収に差が出ると思われる。それを念頭に「理系たまごの英語 40 日間トレーニングキット」を論評する。

本書は英語学習書籍に力を注ぐ（株）アルクから出版された理系学部 1-2 年生を対象にした英語教材で、Kit-1~4 の箱入り 4 分冊である。構成は Kit-1 が基礎編(p107)、2 が発展編(p143)、3 が学習ナビブック(p111)、4 がインタビューブック(p31)となっている。1-2 は理系英語に初めて接した人を対象に、CD で発音を押さえながら、理系の特殊な表現を学習していく内容で、視覚聴覚を駆使していることから習熟度も悪くないと思う。特に Kit-1 では「単位」を扱っていたり、数式の読み方を扱っていたりして、なかなかこれまでの英語学習では触れなかったであろうものの、研究活動を進める上で必須の項目を扱っており評価できる。Kit-2 は 1 つのテーマごとに色々な問題が出されていて飽きさせない作りにはなっている。しかし、章ごとで分野が大きく異なることから、興味の無いテーマの章には取り組みにくいかもしれない。例えば生物実験の項目を物理学科の人間が実際に興味を持って取り組むだろうか？当然何でも知っているに越したことは無いのだろうが「理系英語をオールラウンドで知っていれば、いろんな研究者とディスカッションも出来るだろうし、研究者の武器になる」とは、やはり研究活動をある程度経験しないと出てこない発想であろう。さらに、本書に 3 巻のエピソード集が必要なのかと考えさせられた。このパートは「英語トレーニング」とはほとんど関係ないが、多くの理系研究者が共感できるであろう英語にまつわるエピソードのみで構成されているので、学生にとっては非常に参考になる。私も英語に関して苦労したところなどには共感するところが多かったので、最初はいい企画だと思った。しかしながら、実際の学生の反応は一概にそうではなかった。どうも知らない世界のことをいくら面白おかしく述べられても理解できない上、いつまでたっても苦労するような話で、「一生懸命やってもこの程度か…」と言った感じの漠然とした失望感が先に来るようである。Kit-4 のインタビューはとても面白かった。優秀な研究者であっても英語には皆同じような努力が必要だったのだと知ることができ、ちょっとした安堵感とやる気を学生読者にもたらすのではないだろうか。以上のことから、本書はやる気にさせる教材でもあるし、研究に最低限必須の項目を扱っておりかつ、学びやすくまとまっていると思う。ただ、税別 6825 円と値段が高いので Kit-1,2,4 をまとめて 1 冊とし、普通の書籍として半分程度の価格に抑えて世に出す方が、学生を相手にするにはよさそうだ。

大阪大学　理学研究科　化学専攻　田中啓文